



早稲田大学国分寺校友会 第6回総会お知らせ

日 時 昭和53年6月3日（土曜日）
午後 4時30分 開会

場 所 国分寺パークレーン TEL. (21) 3231
1階ミーティングルーム

記念講演 早稲田大学教授 仁戸田 六三郎先生
午後5時～5時40分

懇親会 午後6時～9時

会 費 校友会年会費 1,500円
懇親会費 3,500円

会場展示：早大マンガ絵はがき 長谷川町子、清水 昆等24点
切手研究会提供

早稲田100年祭を4年後に控えて、われわれ早稲田マンの意気は益々上っております。世は不況といい、政情は混沌としていますが、これを打破して、世直しをするのは、大隈老侯以来、早稲田マンの使命ともいえるでしょう。われわれ国分寺に籍を置く校友が肩を組み、声高らかに紺碧の空を謳歌しようではありませんか。卒業年度など関係ありません、みんなみんな若さを誇りとしております。お近くの校友お誘い合せの上、是非ともご参加頂き、一夕を楽しくお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

同封はがきにて5月28日までに出席ご通知下さい。

国分寺校友会の活動



創立総会 昭和48年 5月21日 (於 国分寺勤労福祉会館)



昭和50年12月
忘年会の1コマ 於 川むら

国分寺校友会が六年目を迎えました。校友の集りとしては、年一回の総会と忘年会が定例として行われておりますが、その他に、毎月第三金曜日の午後七時より九時まで、パークレーンの談話室で「ワセダ・サロン」を開いています。「ワセダ・サロン」では会の運営に対する相談やら、企画やらを行います。が、その他に、その時々々の政治、経済、文化、教育、市政等に話の花が咲きます。三月のサロンの時です。村山顧問が昨年度の雑誌売上げ高二億円の内、一十億円がマンガ本であったとのお話あり、それ



昭和53年1月
サロン新年会 於 パークレーン

を受けて出席の面々から、若し雑誌売上げの過半数がマンガ本となったあかつきには、我々も常識としてのマンガ本研究会をもたなければ時代遅れとなりかねない……と愉快な話が行われました。
「ワセダ・サロン」へのご参加を切望しております。

近隣校友会紹介

八王子早稲田会

「早稲田大学創立一〇〇周年 中央大学八王子校舎開校記念野球試合」
 学生時代のなつかしい思い出の一つである神宮球場での早稲田大学の野球試合を、私達の街で再現したいという校友各位の熱意が実って、この六月に八王子市民球場に早稲田大学野球部を迎え親善試合を行うことになりました。

対戦相手は本年八王子に全校移転して参りました中央大学野球部です。

八王子早稲田会と八王子中大の共催ですが、両校友会とも是非神宮のふんいきをそのまま作ってみせようという意気込みで野球部のみならず、応援部、ブラスバンドも一緒に呼んでエールの交換など行います。就きましては近隣校友各位にも、是非御来王の上ご声援下さるようよろしくお願い致します。

- 一、期 日 六月十八日(日曜日)
- 二、場 所 八王子市民球場
- 三、試合開始 午後一時三〇分
- 四、入場無料
- 尚、午前中は八王子野球連盟少年部野球を行います。雨天の場合は中止
- 主催 八王子早稲田会 八王子中大
- 後援 八王子市 八王子教育委員会 八王子体育協会 八王子野球連盟 早稲田大学 中央大学
- なお、野球終了後 八王子早稲田会レセプションを行います。
- 1 時 間 午後五時より
- 2 場 所 小杉会館(八王子市八日町)

3 来賓 村井総長 滝口体育局長

八王子早稲田会役員

- 会長 片桐 進
 - 副会長 齊藤 芳孝 青木 宏之
 - 幹事長 梅沢 敏高
 - 会 計 松井 透
- 支部誌によると、大正一〇年代に発足當時は三多摩稲門会と称し、会長川口寛之氏昭和初期に独立して現在に至る。現会員数校友八六〇余名、学生二〇余名。職域校友八〇余名(当地に勤務先をもつもの)で構成されています。

早大国立校友会

戦後における国民思想の分裂相こくによつて、社会秩序は混乱を極め、同胞互いに相撃つ国内抗争は、あだかも「分裂国家」さながらの様相を呈しています。この現状を打開する途は、政治、経済、教育その他全般にわたる国民倫理の高揚をはかり、すべての国民が共同社会における連帯責任を自覚することによつて「対立闘争」から「連帯協調」への一億国民の姿勢転換を目指すことが何よりも急務であると信じて疑わぬい。早稲田マンが手に手を取つてこの運動の先頭に立ちとうではありませんか。

早大国立校友会 顧問 国立愛児園 青柳 賢二

- 会長 大賀 秀夫 大15 専政
- 顧問 青柳 賢二 昭16 経
- 会計 桜山 隆一 昭25 商
- 幹事 長沼 昭夫 昭26 政経
- 役員 萩尾 昇

宮田 唯男 昭24 専法
 一三〇名



立川稲門会

立川稲門会では、登録会員二一〇名を擁し、役員各位のご努力によって団結した成果を挙げておられます。

名誉会長 武藤 重郎

早大府中校友会

昭和五二年六月一〇日、大國魂神社参集殿で早稲田大学府中校友会設立総会が開かれた。多年にわたる大願であっただけに、約一〇〇名の参加者は、老いも若きも「学生さん」の顔に戻って旧交を暖めあった。

会則議決、役員選出に続き、懇親会が催され、大國魂の森は、しばし「都の西北、早稲田の森」と化したようであった。

「会員相互の親睦をはかると共に、会の拡大につとめたい」とは事務局を務める吉誠・幹事。(52年6月17日 府中新聞より)

- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 副会長 | 砂川 昌平 | 副会長 | 野宮 昌彬 |
| 幹事長 | 高野 金悟 | 幹事長 | 柳沢 一郎 |
| 副幹事長 | 井上 佳道 | 副幹事長 | 中村 克久 |
| 総務幹事 | 高野 金悟 | 総務幹事 | 高野 金悟 |
| 企画幹事 | 原口 武彦 | 企画幹事 | 原口 武彦 |
| 広報幹事 | 羽生 凱哉 | 広報幹事 | 羽生 凱哉 |
| 経理幹事 | 高橋 芳樹 | 経理幹事 | 高橋 芳樹 |
| 監査 | 榎本 信行 | 監査 | 榎本 信行 |
| 地区幹事 | 曾我部岩雄 | 地区幹事 | 曾我部岩雄 |
| 錦町 | 沢井 武重 | 若葉町 | 若葉 量良 |
| 柴崎町 | 高田 勝敏 | 若葉町 | 若葉 量良 |
| 富士見町 | 鈴木 關郎 | 若葉町 | 若葉 量良 |
| 羽衣町 | 中村 政弘 | 若葉町 | 若葉 量良 |
| 曙町 | 鈴木 三郎 | 若葉町 | 若葉 量良 |
| 高松町 | 榎本 信行 | 若葉町 | 若葉 量良 |
| 幸町 | 杉本 健 | 若葉町 | 若葉 量良 |
| 柏町 | 高橋 芳樹 | 若葉町 | 若葉 量良 |
| 砂川町 | 砂川 昌平 | 若葉町 | 若葉 量良 |

会長 松本 三郎
 副会長 清田 武臣
 顧問 平田富太郎、大室 政右
 幹事 浦野 清、大久保洋吉、神代
 碩之、小島 輝也、富田 正
 利、中村 賢治、久田 暁、
 山口 政行、吉 誠。

会員数 二二〇名

小金井稲門会

初代会長を偲ぶ

小金井稲門会の創立は昭和三四年に遡る。当時小金井市の選挙管理委員会の委員長であった故山本信夫氏（小金井製作所株式会社専務取締役）大正一一年理工）の大号令でまとまったものである。



山本さんは初代会長となられた人であるが、小金井稲門会の歴史はこの人と共にある。といつて差支えない。山本さんは大学の講師も歴任され、何よりも小金井経済界のトップであった人である。町当時、商工関係から推されて町議会議員も歴任された方である。着ている背広の布地は、いつも輸入物であり、銀座の一流店の仕立である。靴の手入れは、それはやかましい人であった。私など時として靴が汚れていると靴は自分で磨くことができる。自分で出来ることはきちんとやれ！と、よくお目玉を喰ったものである。

ソフトのかぶり方がまたいかにもダンディであり、どこからみても飛び切りの紳士であった。時間の觀念もやかましく、市の会合などでも、市長が時間に遅れて来ようものなら「貴様なんだ！ 主催者のくせに遅れて来よつて！」と一喝する。それがまた、いかにもイヤミなところはなく、このような生活の觀念は欧米生活の中で身についたもののように思われた。

何しろ小金井のような田舎には数少ない有名人であったから誰もが尊敬し、それだけに権威もあり、小金井市の大久保彦左工門で通っていた。義理と人情に厚く、曲つたことは大嫌いという典型的なワセダニアであった。愛妻家としても有名だった。

この山本さんが、たまたま小金井市役所の林君（昭31 政経）が、政府から派遣されてアメリカの地方行政の勉強に行くことになったことから、山本さんの肝いりでよく親しい同門の士が集って、さる料理屋で歓送会を開いた。丁度昭和三四年の夏であった。このときである。誰からともなく小金井に稲門会を作つたらどうかという話が出、ひとしきり話題となったが、誰も幹事役をいやがって火中の栗を拾う者がおらず話しが沙汰やみになりそうになった。そのとき山本さんが、林君に「お前やれ！ 市役所に勤めているんだから連絡もとり易いし、まだ若いんだからそのくらいのことはやれ。お前やれ！」と大喝一声、それで話しは決まってしまった。当時二七才の気鋭的林君も、親父以上の年の山本大先輩の指名ではた恐れ入る許りだった。

経た。昨年は小金井稲門会を、大学から清水 司先生（常任理事）、校友会から野島寿平先生（常任幹事）のご出席を得て、大隈会館で開催し、故山本会長の秀子夫人のご出席を戴き、記念品を贈呈し、出席者一同で故会長の冥福を祈つた次第である。

今でも稲門会のメンバーが集つて一杯のむと必ず山本さんの話しになる。それほど個性の強い人だった。山本さんは好んで同門の若い人達を集めては一緒に酒を酌み交わすのが好きだったが、そのときの人達が今は第一線に立っている。そういう意味からも、小金井稲門会の歴史は、まさに故山本会長とともにあるといえるのではなからうか。（稲垣 信雄）

- 会長 稲垣 信雄
 副会長 寺本 正男
 顧問 内古岡 寅太郎
 監査 伊藤 豊、前島 亮三
 幹事 本田 尚士、大沢 長彦、鳴下 金吾、中林 美沙夫、佐野 徹、秋山 東生、大賀 昭彦、関口 弘治、田中 三三夫、亘理 鉄哉、佐野 浩、林 茂夫
- 会員数 三五〇名

落ち稲ひろい

五二年度に作りました名簿が未だ少々残っております。お手許に届いていません方は至急お申し出下さい。お送り致します。

第六回総会には、早稲田の名物教授、仁戸田 六三郎先生が講演をお引受け下さいました。先生は早稲田精神の真骨頂とも申す方で、講演内容の細部打合せはごさいませんが、きつと良いお話しを頂けるものと期待しております。この部分だけでもご出席下さつて結構です。なお、総会後、出来るだけ早く、会報第八号を発行し、先生の講演を活字でお目にかけたいと考えております。その節、五二年度の会計報告も共に載せさせていただきます。今回は近隣校友会のご協力で、紹介させて頂きました。お忙しい中を資料及び原稿をお送り下さいましたことを厚く御礼申し上げます。なお、紙面の都合で、原稿のうち一部を削除した失礼の段おわび申し上げます。

それでは六月三日の総会・懇親会で皆様とお顔を合せて、愉快な一日であることを今から楽しみにしております。

梅田 浩正

早稲田大学国分寺校友会・会報 第7号
 昭和五年五月一日 発行
 早稲田大学国分寺校友会
 国分寺市東元町1-38-24
 梅田 浩正方
 三八八四
 電話 ○四二三（二三） 梅田 茂雄
 編集 広報部 須田 茂雄
 黒川 清知